

令和2年度 学力向上指導改善プラン

三田市立ゆりのき台中学校長 大野 正人

学校教育目標		4月		2～3月			
		学力向上に向けての重点的な目標 (指標となる数値等)		成果となる目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)			
推進主体		研究推進委員会		年度末評価			
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(今年度の成果と来年度に向けた課題等)			
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況 (国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	<ul style="list-style-type: none"> 全体をとおして優良な結果である。 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域、特に記述をする「封筒の書き方を理解して書く」については、日常から封筒の正しい書き方を理解して活用されていることがうかがえる。 「読むこと」の領域、「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること」に課題がみられました。今後は、文章の構成を理解し、要点をまとめるながら情報を整理する活動を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリア教育」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート(生徒、保護者) ⇒90% 「将来の夢や目標を持っている」と答える生徒の割合：全国学力・学習状況調査 ⇒70% 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育推進体制を整備する。 キャリアノート、キャリア教育指導資料等を活用する。 「わくわくオーケストラ(1年)」「トライやる・ウィーク(2年)」の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリア教育」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート(生徒、保護者) ⇒生徒90% 保護者77% 今年度は、「キャリア教育」を本校の柱と位置付けた。学校評価アンケートでは、生徒の肯定的評価が90%以上あり、高学年ではさらに高い評価を得たが、保護者では80%を下回り、生徒より10%以上低くなっている。学校評価アンケート後の3学期にキャリア教育としての学習を行ったことも要因の一つと考えられる。 ○全国学力・学習状況調査、わくわくオーケストラ、トライやる・ウィークはコロナ禍のための代替活動となった。 	B
		算数	<ul style="list-style-type: none"> 全体をとおして優良な結果である。 「数と計算」の領域では、正答率も高く、基本的な計算能力が身についている。 「正の数と負の数」という設問に課題があり、「正の数」と「負の数」との区別がつかずに解答している生徒が多く見られました。今後は、数の集合を図式化し、具体的な数学を示すことで、数の概念の認識を高めていく必要があります。そこで、数直線やドランプなどを活用し、正負の数の大きさを理解できるように努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「変化の激しい時代を生き抜く力」に対する肯定的回答の割合 ⇒80% ○タブレットなどICT機器を活用した授業を行った教員の割合 ⇒90% 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前から11年を見通した教育を推進するため、小中連携を図る。 ・ICT機器の活用を研修の中心とするとともに、情報教育の充実を図る。 ・伝統や文化に関する教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携は生徒指導や特別支援教育などを中心に定期的に実施できた。 ○タブレットなどICT機器を活用した授業を行った教員の割合 ⇒90% ○道徳や体験活動を含めた全教科・領域を研究対象として、学んだことを主体的に活用し、応用・発展していけるような授業展開や教材開発について、全教員による校内研究会等を通して研究と修業に努め、その結果、研究風土は醸成された。2年度の校内研修会と県立三田待雲館高等学校との交流はその成果といえる。保護者へ、文化祭「合同コンクール」を「YouTube」により配信できたことにより、保護者の大きな信頼を得ることができた。 	A
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ●学校評価アンケートに、定期考査の難易度が高すぎるといふ回答が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学習指導」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート(生徒、保護者) ⇒95% ○「読書が好き」と答える生徒の割合：全国学力・学習状況調査 ⇒75% 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会を中心に、全国学力・学習状況調査等を活用し、学力向上に努める。 ・朝読書、がんばりタイム等により一人一人の確かな学力の育成を図る。 ・「さんだっ子読書通帳」の活用により、読書活動の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学習指導」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート(生徒、保護者) ⇒生徒92% 保護者84% 朝読書、朝学習、がんばりタイム等により、確かな学力の定着が図れた。また、「さんだっ子読書通帳」の活用により、読書活動の推進ができた。 ○次年度は、「タブレット」を授業はもとより朝学習やがんばりタイムにも活用し主体的に学ぶ力に繋げたい。 	B	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ○総じて落ち着いた授業態度である。 ●「主体的・対話的で深い学び」の深化を図るための更なる研究が必要である。 					
	償学・力生向上活学習に慣係等るの学習状況	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的に勉強に取り組んでおり、学校以外で学習時間を確保できている。 ○外国の人と友達になったり、外国のことをもっと知りたそうとする生徒の割合が高くなっている。 ●住んでいる地域の行事への参加に課題があります。今後は、トライやるウィークをはじめとした学校行事や生徒会活動を通じ、地域に住んでいる方々との交流の機会をつくっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「開かれた学校づくり」「特色ある学校づくり」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート(生徒、保護者) ⇒90% ○ゆりのき台中学校区学校園「連絡会」「研修会」の開催回数 ⇒計5回 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの連続性」を意識したゆりのき台中学校区での連携を推進する。 ・学校園所連携推進に係る「ゆりのき台中学校区連絡会」や「研修会」を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「開かれた学校づくり」「特色ある学校づくり」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート(生徒、保護者) ⇒生徒98% 保護者95% 肯定的評価が、保護者、生徒ともに90%以上となっている。また、昨年度よりも上昇し、生徒では、6%程度上昇している。「臨時休校中」からホームページを中心に学校の情報をできるだけ早く正確に伝えることによるものと考えられる。しかしながら、「特色ある学校づくり」については、保護者、生徒ともに75%を下回っており、今後の本校の大きな課題となっている。次年度は、本校創立30周年にもあたり地域の皆様とともに「特色ある学校づくり」に努めたい。 ○ゆりのき台中学校区学校園「連絡会」「研修会」の開催回数 ⇒計5回 学校長をはじめ生徒指導や特別支援教育などで、定期的な会だけでも日常から必要に応じて連携を深めることができた。 	B	
研校内の研状況	<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的に学び合い、対話を通して深め合える授業づくり」をテーマに研究を推進できた。 ●「キャリア教育」「防災教育」「特色ある学校づくり」が喫緊の課題である。 ●通常の研修に加え、夏休み期間を中心にグループ等で自主研修を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学習指導」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート(生徒、保護者) ⇒90% ○授業公開をした教員の割合 ⇒100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会的自立に向けたキャリア教育」をテーマに、三田市教育委員会奨励研究に取り組む。 ・学期に一度、教員対象の授業公開期間を設ける。 ・講師を招聘し、授業研究会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学習指導」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート(生徒、保護者) ⇒生徒92% 保護者84% 肯定的評価が、生徒は90%以上、保護者は80%以上となっており、保護者の肯定的評価が生徒より低くなっている。今後は、保護者への丁寧な情報発信に努めたい。 ○授業公開をした教員の割合 ⇒100% 自主的にすべての教員が相互に授業を公開を行い、授業力を高めることができた。次年度は、三田市教育委員会特別指定「情報」教育の研究を推進することにより、教職員の資質向上を図る。 ○「社会的自立に向けたキャリア教育」をテーマに、三田市教育委員会奨励研究に取り組んだ。学校評価アンケートでは、生徒の肯定的評価が90%以上あり、高学年ではさらに高い評価を得たが、保護者では80%を下回り、生徒より10%以上低くなった。今後は、「キャリアパスポート」を核として「キャリア教育」の研究を校区内4小中学校で連携して推進すると同時に、保護者へのより丁寧な情報発信に努めたい。 	B		
家庭・携校種間	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭・地域との連携のもと、放課後や夏休みを利用して学力補充を進める必要がある。 ●教科毎の連携から、系統性を意識したカリキュラム連携への発展を目指す。 						